

令和3年度神奈川県教育委員会表彰（神奈川県優秀授業実践教員表彰）について

令和3年度神奈川県教育委員会表彰（神奈川県優秀授業実践教員表彰）について、神奈川県教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第2条第2項の規定により事務を臨時に代理し、次のとおり被表彰者を決定しましたので、同規則第2条第3項及び教育委員会の指示事項の1の(3)の規定に基づき報告します。

令和3年10月19日提出

神奈川県教育委員会
教育長 桐谷次郎

令和3年度神奈川県優秀授業実践教員表彰被表彰者一覧

第1部門 19名（小学校3名、中学校4名、高等学校11名、特別支援学校1名）

	学校名	氏名	職名	教科等名	授業実践等の概要
1	大和市立つきみ野中学校	トシマ 豊島 ヨコ 美代子	総括教諭	外国語 (英語)	英語の授業において、学習活動に応じて効果的な学習形態を取り入れることで、生徒の技能の習得を促す授業実践を行っている。
2	座間市立旭小学校	アベ 阿部 ショウタ 正太	教諭	全教科	算数の授業において、対話的な活動や児童の考え方を把握した適切な対応により、学級全体が意欲的に参加できるような授業実践を行っている。
3	平塚市立港小学校	サイノウ 齋藤 アユム 歩	総括教諭	全教科	社会の授業において、児童が主体的に活動に取り組み、知識・技能を習得できるよう、教材や指導方法を工夫した授業実践を行っている。
4	大井町立大井小学校	ニッタ 新田 サミ 里美	教諭	全教科	英語の授業において、児童が積極的に英語を考え、話すための様々な学習形態を取り入れ、児童の言葉や考え、表現をつないだ授業実践を行っている。
5	小田原市立鴨宮中学校	コシヅ 小清水 マサカズ 昌一	教諭	社会	社会の授業において、学習の流れを提示して生徒自身に学習の見通しを持たせることで、生徒の主体性を高める授業実践を行っている。
6	南足柄市立南足柄中学校	ムラカミ 村上 ヨウ 揚	総括教諭	社会	社会の授業において、他者の意見を参考に自分の考えをまとめて発表する機会を多く設けることで、生徒が互いを尊重し合える授業実践を行っている。
7	横須賀市立長沢中学校	キシガミ 岸上 テツヒロ 哲夫	総括教諭	社会	社会の授業において、生徒の実態をよく把握し、主体的に活動に取り組める工夫をすることで、生徒が考えを深めることのできる授業実践を行っている。
8	県立神奈川工業高等学校	マツオカ 松岡 ヒロアキ 洋明	総括教諭	数学	数学のオンライン授業において、生徒が対応しやすいような雰囲気づくりやカメラの使い方、スライドの提示方法を工夫した授業実践を行っている。
9	県立横浜国際高等学校	キタツメ 北爪 カズヒサ 一久	総括教諭	数学	数学の授業において、国際バカロレアについてよく理解するとともに、生徒の主体的な学びにつながる教材の工夫をした授業実践を行っている。
10	県立光陵高等学校	クボタ 久保田 マサヨシ 正芳	総括教諭	家庭	家庭科の授業において、仮説の設定や検証、単元の学びに対する振り返り活動を取り入れ、生徒の考えを深めさせる授業実践を行っている。

	学校名	氏名	職名	教科等名	授業実践等の概要
11	県立光陵高等学校	コガネマル 小丸 隆倫	総括教諭	外国語 (英語)	英語の授業において、生徒が課題解決の方法を考え英語で表現する主体的な取組によって、思考力・判断力・表現力を育む授業実践を行っている。
12	県立二俣川看護福祉高等学校	ハセガワ 長谷川 浩志	教諭	福祉	福祉の授業において、生徒理解に基づく発問や教材の工夫により、生徒の意欲や能力を引き出すことのできる授業実践を行っている。
13	県立霧が丘高等学校	ヤマモト 山本 文彦	総括教諭	芸術 (美術)	美術の授業において、ICTを活用したグループ活動を通して、生徒の意欲を高めるとともに理解を深める工夫がされた授業実践を行っている。
14	県立川和高等学校	ミヤザキ 宮崎 聡	教諭	地理歴史	地理歴史の授業において、日頃から単元を見通した上で、生徒自身が主体的に学習に取り組む態度を養うことをねらいとした授業実践を行っている。
15	県立瀬谷高等学校	ハギワラ 萩原 拓己	教諭	地理歴史	地理歴史の授業において、資料から得た知識や考えを他者と共有する活動により、思考力・判断力・表現力を育成する授業実践を行っている。
16	県立生田東高等学校	オオイシ 大石 智広	教諭	情報	情報の授業において、教材準備や指導方法、授業構成を工夫し、生徒が授業の中で自ら知識を獲得できるような授業実践を行っている。
17	県立湘南台高等学校	マルノ 丸野 智恵美	教諭	芸術 (書道)	書道の授業において、ペアワーク等の活動や鑑賞・分析を通して、書への知識を身に付け、表現力を養う授業実践を行っている。
18	県立相原高等学校	タカハシ 高橋 ともみ子	総括教諭	農業	農業の授業において、生徒の実態を踏まえて教材を準備・工夫し、生徒が思考を深め、知識や技術を定着させることのできる授業実践を行っている。
19	県立平塚養護学校	ササキ 佐々木 智美	教諭	特別支援	自立活動の授業において、生徒の主体的な活動を引き出すために、ICTの活用や家庭との密な連携をすることで、生徒の実態を踏まえた授業実践を行っている。

第2部門 28名（小学校3名、中学校4名、高等学校18名、特別支援学校3名）

	学校名	シメイ 氏名	職名	教科等名	授業実践等の概要
1	寒川町立旭が丘中学校	トクナガ 徳永 リュウタロウ 龍太郎	教諭	社会	社会の授業において、生徒の気づきや学びを促すとともに、既習事項とのつながりを意識した授業実践を行っている。
2	綾瀬市立綾北中学校	キタイ 鍛代 ヒロシ 浩美	教諭	社会	社会の授業において、教材や指導方法の工夫により、生徒が確実に学習課題に向かって活動に取り組むことができる授業実践を行っている。
3	愛川町立愛川中原中学校	ツチノリ 土持 トモミ 恵美	教諭	音楽	音楽の授業において、ICTを活用した教材の充実や指導方法の工夫により、生徒が意欲を高めることのできる授業実践を行っている。
4	伊勢原市立大山小学校	アサダ 浅田 カキ 菜花	教諭	全教科	英語の授業において、教材の工夫をすることで、児童自身がより身近に英語を感じることができるよう授業実践を行っている。
5	大磯町立大磯小学校	ワダ 和田 ユキエ 幸江	教諭	全教科	英語の授業において、児童自身が感じた気づきを視覚的に表現する方法を取り入れるなど、多様な表現や考えが尊重された授業実践を行っている。
6	大井町立大井小学校	サノウ 佐宗 ハルミ 敏美	教諭	全教科	算数の授業において、児童の考えや実態を丁寧に把握した上で授業展開を計画し、個を生かすような授業実践を行っている。
7	横須賀市立長沢中学校	フジ 藤井 リュウヘイ 亮平	教諭	数学	数学の授業において、適切な声掛けや課題・場面の設定の工夫により、生徒が自ら課題解決をできるような授業実践を行っている。
8	県立横浜翠嵐高等学校	オオバヤシ 大林 コウヘイ 耕平	教諭	地理歴史	地理歴史の授業において、適切な課題設定や教材・指導方法の工夫により生徒の気づきを促し、思考力・判断力・表現力等を育む授業実践を行っている。
9	県立横浜緑ヶ丘高等学校	イバシ 板橋 カズマサ 和政	教諭	理科	理科の授業において、多様な学習活動を取り入れるとともに、生徒の理解度に応じた教材及び指導の工夫や改善のされた授業実践を行っている。
10	県立横浜緑ヶ丘高等学校	ヤマモト 山本 タカヒコ 貴大	教諭	外国語 (英語)	英語の授業において、既習の知識を活用して表現をさせる活動を行い、深い学びを実現できるよう工夫をした授業実践を行っている。

	学校名	氏名	職名	教科等名	授業実践等の概要
11	県立横浜国際高等学校	シバ ケンジ 芝 健司	教諭	地理歴史	地理歴史の授業において、深い学びにつながるような問いの設定や発表活動を取り入れ、生徒が主体的に学びに向かう姿勢を育成する授業実践を行っている。
12	県立横浜国際高等学校	キムラ ミツヒロ 木村 光宏	教諭	数学	数学の授業において、グループ活動やICT教材を効果的に取り入れ、生徒が主体的に学習に取り組むことのできる授業実践を行っている。
13	県立光陵高等学校	ミヤザキ テツオ 宮崎 哲生	教諭	国語	国語の授業において、豊富な言語活動の設定や綿密な教材研究により、生徒の思考を効果的に引き出す工夫をした授業実践を行っている。
14	県立保土ヶ谷高等学校	コドウ アスカ 近藤 飛鳥	教諭	外国語 (英語)	英語の授業において、生徒が前向きに言語活動に取り組むとともに、達成感を得られるような仕掛けを多く取り入れた授業実践を行っている。
15	県立柏陽高等学校	ナカヤマ アイ 中山 藍	教諭	外国語 (英語)	英語の授業において、生徒が英語を使う活動を多く設けるとともに、一つの問いに対して多様な表現ができるように工夫をした授業実践を行っている。
16	県立柏陽高等学校	マツモト ヨシエ 松本 嘉恵	教諭	国語	国語の授業において、効果的にペアワーク等の活動を取り入れ、生徒が学び得た知識をもとに思考を深めることのできる授業実践を行っている。
17	県立横浜修悠館高等学校	フカダ ユキヒロ 深田 幸宏	教諭	地理歴史	地理歴史の授業において、オンライン会議システムを活用して教室と外部講師をつなげることで、生徒の関心や理解を深めるような授業実践を行っている。
18	県立住吉高等学校	ヤマダ タカヒロ 山田 恭弘	教諭	情報	情報の授業において、生徒同士が教え合い、試行錯誤する時間を十分にとることで、課題に対して粘り強く考える姿勢を育成する授業実践を行っている。
19	県立川崎北高等学校	サウ ジンイチ 佐藤 淳一	教諭	芸術 (美術)	美術の授業において、生徒の実態に合わせた働きかけにより、作者の心情や技法、美術史に対する理解や関心を深めることのできる授業実践を行っている。
20	県立多摩高等学校	シバタ カズノリ 柴田 和範	教諭	公民	公民の授業において、生徒同士による言語活動を多く取り入れることで、生徒の思考を深め、表現力を育む授業実践を行っている。

	学校名	シメイ 氏名	職名	教科等名	授業実践等の概要
21	県立麻生高等学校	ナカヤマ 中山 マサヒ 雅仁	教諭	数学	数学の授業において、生徒の興味・関心を引き出し、視覚的に知識を習得できるよう、ICTを効果的に活用した授業実践を行っている。
22	県立鎌倉高等学校	シバタ 柴田 ユキヒロ 幸夫	教諭	理科	理科の授業において、既習内容を生徒同士で確認し合う学習活動を取り入れ、生徒の主体的な取組を促すような授業実践を行っている。
23	県立相原高等学校	イトウ 伊東 ショウゴ 秀梧	教諭	理科	理科の授業において、生徒が主体的に活動し、生徒同士で考えを共有し、深め合うことができるように工夫をした授業実践を行っている。
24	県立上溝南高等学校	ヤナギヤ 柳谷 コウイチ 孝一	教諭	外国語 (英語)	英語の授業において、生徒の側に立った丁寧で明確な説明や指示をするとともに、授業展開や教材を工夫した授業実践を行っている。
25	県立相模田名高等学校	マツムラ 松村 タカシ 貴志	教諭	公民	公民の授業において、生徒が活動の中で、知識や思考方法に自ら気づくことができるように工夫をした授業実践を行っている。
26	県立平塚養護学校	オクダ 奥田 ナホト 千尋	教諭	特別支援	社会の授業において、生徒の意欲や主体性を引き出して学習内容を意識させる工夫により、学んだことを日常的に生かすことができる授業実践を行っている。
27	県立相模原中央支援学校	カネコ 金子 ミサト 美里	教諭	特別支援	美術の授業において、個々の実態に合わせた目標の設定や授業計画により、生徒の興味・関心を引き出すような授業実践を行っている。
28	県立相模原中央支援学校	サクマ 佐久間 ヒロカ 和	教諭	特別支援	体育の授業において、児童の実態を丁寧に把握した教材の工夫や指導・支援により、児童が主体的に学習活動に取り組めるような授業実践を行っている。

令和3年度神奈川県優秀授業実践教員表彰 制度の概要及び審査経過

1 制度の概要

(1) 趣旨

教員の人材育成施策の一環として、学校教育における授業実践に優れ、教員の模範として推奨すべき者を表彰し、顕彰するとともに、教員全般の意欲及び資質能力の向上に資する。

(2) 導入年度

平成19年度

(3) 対象者

県立学校及び市町村立学校（横浜市立、川崎市立、相模原市立の学校を除く）の総括教諭、教諭、養護教諭、栄養教諭、助教諭、養護助教諭及び常勤講師

(4) 表彰候補者の基準

優れた授業の実践が顕著な者（教科指導、特別支援教育に関する指導、保健に関する指導、食に関する指導等）

(5) 部門の内容（表彰する年度の4月1日時点）

第1部門：総括教諭又は教職経験10年以上かつ35歳以上である者

第2部門：教職経験10年未満又は35歳未満である総括教諭ではない者

2 審査経過

- ・ 4月 : 市町村教育委員会及び県立学校長に対し推薦を依頼
- ・ 5月 : 県教育委員会に推薦書を提出
- ・ 6～8月 : 各所管機関において、表彰候補者に対する授業観察及び予備審査を実施
 - ・ 市町村立学校 : 各教育事務所、横須賀市教育委員会
 - ・ 県立学校 : 高校教育課、特別支援教育課
- ・ 9月 : 審査会の実施
審査会（座長：教育局長）の意見具申をもとに教育長が被表彰者を決定

3 被表彰者数

表彰年度 部門 校種	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和3年度	
	第1部門	第2部門	第1部門	第2部門	第1部門	第2部門	第1部門	第2部門
小学校	6	5	3	4	4	5	3	3
中学校	3	1	4	5	5	2	4	4
高等学校	8	15	7	10	8	13	11	18
中等教育学校	0	0	0	0	1	1	0	0
特別支援学校	1	5	1	5	5	5	1	3
合計	18	26	15	24	23	26	19	28

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、休止とした。

※ 令和3年度被表彰者の年齢等内訳（令和3年4月1日現在）

年齢構成	20代	30代	40代	50代	合計
第1部門 平均年齢：43歳 平均教職経験年数：16年	0	8	8	3	19
第2部門 平均年齢：33歳 平均教職経験年数：7年	5	21	0	2	28
合計	5	29	8	5	47

4 被表彰者の活用

校内や校外の教員に対する積極的な授業の公開

例年、被表彰者に対し、各学校の校内で決まった期間に授業を見合う機会や、初任者研修の他校訪問などの機会を積極的に活用し、1年以内に授業公開を1回以上行うことを義務付けている。今後の授業公開については、新型コロナウイルス感染症の感染状況等を踏まえ、実施方法等を検討するものとする。

なお、令和2年度における授業公開については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から任意での実施とした。

(参考) 令和元年度被表彰者の実績

ア 授業の公開の実績（令和2年10月31日時点）

	校内向け公開	他校向け公開	全ての授業の公開
実施総回数	183回	30回	213回
参観総人数	689人 参観	328人 参観	1,017人 参観

イ 活用の結果、感想等

- ・ 周りの教員が、授業の手法等について、研究会の場や日常の会話の中で、被表彰者に質問したり話し合ったりする機会が増え、授業研究が活性化した。
- ・ 他教科・他校種の教員を交えて授業についての議論や情報交換ができた。
- ・ 被表彰者が校内での自主研修会の講師を務めるなど、校内の授業力向上に貢献している。

など

5 今後の予定

- ・ 11月22日（月） 表彰式 神奈川県庁本庁舎3階 大会議場 16時15分～17時00分
※ 新型コロナウイルス感染症の感染状況等を踏まえ、開催の可否を決定する。